

### 1 事業総括

平成28年度の年間利用総延人数は、生活訓練事業において前年度884人から310人へと大きく減少した(対前年度比35.1%)。積極的な利用調整により在籍者数は概ね変わらないものの、事業の特性上、利用頻度に結びつきにくい現状がある。一方、事業収入の中核となる就労継続支援B型においては引き続き利用人数が確保され、全体としては概ね安定した運営を維持することができた。

利用者支援においては、施設外で就労するための積極的な働きかけを実施。就労継続支援A型事業所への移行などステップアップできる支援を行った。また、清掃事業の受託についても積極的に取り組んだ。外部就労者が増加したことで、事業所内の座席や空間確保が図られ、新規利用者の受け入れ調整も順調に行うことができた。計画相談支援では、適切な支援計画の作成により関係機関との連携を深めることで、順調な運営を行うことができた。契約制度の施設で登録者を増やし、利用頻度の向上を図るためには、工夫の余地もある。利用者にとって「毎日でも通いたい施設」とするために、サービスの充実とともに施設環境の改善が課題となる。

	定員		28年度実績						27年度実績				
			年度末在籍者数			利用総延人数			年度末在籍者数		利用総延人数		
就労継続支援B型	20人		31人			4,408人			31人		4,589人		
生活訓練	6人		7人			310人			8人		884人		
総延人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日平均
就労継続B	360	370	423	395	395	359	361	370	345	315	347	368	18.1人
生活訓練	41	50	28	25	23	30	27	17	17	14	14	24	1.3人

28年度実績	受託数	サービス等利用計画作成	モニタリング実施数
計画相談支援	10人	12件	10件

### 2 主要目標に対する成果

(1) 利用者の希望実現と、社会生活能力向上・自信回復の援助

パソコン講習など、就労準備講座への継続参加者があり、目標へ向けた積極的活動がみられた。清掃受託作業でのリーダー制が円滑に機能し、清掃事業にとどまらない能力向上が実現できた。

(2) 家事練習や生活リズムを整える支援と利用者間の交流促進

各利用者の状況に応じて、保健衛生面などの生活管理、金銭の収支管理などが求められ、提供するサービスは多岐にわたった。これらについては、日常の通所を通して、利用者本人の気付きや行動変容などにより、徐々に改善を見ることができた。なお、生活訓練プログラムを通して、施設外への見学を行ったり、カラオケ会の実施など、利用者間の交流が深まる機会を提供した。

(3) 障害者相談支援事業の実施と、地域障害者ニーズに応えての当事業利用者への地域資源紹介

従前からみのり舎を活用する利用者への相談支援事業サービスの提供、ならびに地域資源の情報提供を実施。また、新規利用者に対しても、積極的に同様のサービス提供を行った。さらに地域の障害者福祉課、保健センター等との連携を行いつつ、円滑な相談支援事業の進捗を図った。

(4) 面接室等環境の充実と賃貸も含めたスペースの拡充

事業の順調な運営に伴い、相談支援事業でのプログラム、面接等にも対応できるスペース拡充を目的として、来年度のさらなる賃貸借契約の見込みがたてられた。

### 3 運営管理

(1) 就労継続支援B型

昨年度に引き続き、内職受託作業での利用者平均工賃額の向上が図られた。内職作業参加への積極的な参加を促し、自覚をもって役割遂行することにより、利用者相互の協働が図られ、作業品質の向上が行われた。そのことにより、委託業者との信頼関係も醸成された。

(2) 自立訓練(生活訓練)

各利用者ニーズに応じて、金銭等に関する支援(負債の解決支援・日常の収支管理能力の向上等)、身だしなみ支援(適切な服装、清潔維持への動機づけ、方法提案等)、健康管理(服薬確認や服薬継続への意識づけ)といった生活全般の支援を、みのり舎での生活時間を通して行った。

## 4 保健衛生・環境整備

### (1) メンバーの健康・栄養管理

- ①メンバーの欠勤があった日には、電話での安否確認を行い、電話相談等も行った。
- ②感染症予防の為、手洗い・うがい・マスク着用の声掛け、インフルエンザ等、流行時に出勤を控えるよう注意喚起を行った。また、休日のリフレッシュ等余暇も含めた健康維持に必要な相談支援を実施した。
- ③希望者には、栄養に配慮した給食サービスの提供を行った。

### (2) 施設内外の環境整備

- ①作業環境について、メンバー自身が作業後に清掃を行うなど、自覚のもてる環境整備を図った。
- ②定期的に地域の公園清掃やみのり舎周辺の道路清掃を行うなど、地域の一員としての環境美化に努めた。

## 5 その他

- (1) みのり舎の自主製品を販売するなど、地域行事への参加を行った。また、地域にある他の福祉施設や、民生委員、ボランティアセンターなどが集まる会議体へ参加した。(新宿区立あゆみの家主宰)
- (2) 地域の防災訓練等に参加して、災害時の相互扶助が出来るように備えた。
- (3) 大学等から実習生を受け入れ、障害福祉サービス事業所の理解が深まる指導、啓発を行った。
- (4) 新宿区内の障害者支援事業所とのネットワーク会議体での連携を緊密にして、区の子精神保健福祉事業への依頼要望等啓発活動を行った。
- (5) 緑化事業において、夢の島の植物園、上野動物園等の視察見学を実施。またレクリエーション行事として、バーベキューレクリエーション、クリスマス会等を行った。

## 6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：日本介護情報機構株式会社

実施期間：H28. 6. 3～H28. 11. 24

### 全体講評：

#### 特に良いと思う点

- ①利用者職員が一体感をもって、明るく楽しい事業所の居心地を作っています。居心地のよい雰囲気づくりを計画的に実現し、在籍の利用者が新たな利用者を紹介するといった、事業所の特徴として誇れるものとなっています。
- ②利用者の視野を広げる丁寧な計画づくり、目標設定に取り組んでいます。会話のある楽しい経験は事業所の目標の重要なキーワードとなっており、ここから相手を気遣う関係性を築いたり、社会常識の重要性理解につながっています。
- ③堅実な事業実績をあげ、信頼できる事業所としての存在感を着実なものにしています。丁寧で正確な作業を大事にし受注確保、依頼件数の増加、受注先開拓につなげています。

#### さらなる改善が望まれる点

- ①地域に根差した事業所を目指し、開かれた雰囲気を醸成する継続的な取り組みが期待されます。地域での存在感を増やすための実現可能な取り組みについて、利用者と一緒に検討を進めることが期待されます。
- ②利用者の活動の幅を広げる視点からも、事業所の情報収集機能を強化することが期待されます。新たに自治会、NPO、民間企業などとの関係を築くことなども望まれます。
- ③障害者支援に必要な、事業所独自のマニュアル作成の取り組みの加速が望まれます。法人で初となる障害者支援事業を提供するには、新入職員が入ることなどを視野に入れた取り組みが望まれます。

### 施設コメント：

利用者の個性を把握し、個別性を活かした支援と、作業という社会とつながる日課の提供が、生活リズムを活性化させ、能力向上、自信回復につながっている。このことが、第三者評価の視点からも、認められたものと捉えている。

今後も、地域に認知され、利用者ニーズに機敏に対応する施設運営に努めていきたい。

また、改善が望まれる点については、職員と利用者が共に取り組んでいくべきことも多い。

具体的には、同種事業者や、地域で開催される各種の会議や企画行事等への参加、ネットワークの構築により、必要な情報を獲得し、かつ発信を行い、地域に根差した事業展開と、知識と経験を蓄積したマニュアル作成に着手したい。実るまでに時間と労力は必要であるが、手間を惜しまず、ひとつずつ、着実な改善を実施したい。